

# 戦評

平成30年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技 埼玉県予選 女子決勝リーグ 第2戦

平成30年6月25日(月)

会場 越谷市立総合体育館

第1試合

対戦	市立川越 高校	14	—	21	埼玉栄 高校
	52	11	—	19	70
		21	—	12	
		6	—	18	

第1P 市立川越#4、5、6、7、9、埼玉栄#7、10、11、15、16で試合開始。両チームともハーフコートマンツーマンディフェンス。埼玉栄が#15のポストプレーで先制。その後も#16の3Pシュートなどで7-0とリードする。市立川越も読みの鋭いディフェンスからの速攻などで、一時は12-9と3点差まで詰め寄るが、埼玉栄は#15のポストプレーや#7、#11のリバウンドでインサイドを制し、21-14と7点のリードを奪って第1P終了。

第2P 埼玉栄は開始直後からインサイドにボールを集め、引き離しにかかる。市立川越は#12を投入し、インサイドのディフェンスを厚くするが、埼玉栄は#10、#15のポストプレーで得点を量産する。さらに、ディフェンスがインサイドに寄ったところで#16が外角から得点し、40-25と埼玉栄がリードを広げて前半終了。

第3P 市立川越はオールコートマンツーマンディフェンスでプレッシャーをかけて活路を見出そうとするが、埼玉栄の高さに苦しみ、なかなか得点を伸ばすことができない。埼玉栄は、ボール運びに苦労するものの、#10が着実に得点しリードを保つ。しかし、5分を経過した辺りで、埼玉栄がボール運びでミスを連発し、市立川越が連続得点。47-35となったところで埼玉栄後半1回目のタイムアウトを取るが、タイムアウト明けも市立川越の勢いを止めることができず、53-46と市立川越が7点差まで追いつけたところで第3P終了。

第4P 埼玉栄は再びインサイドの#10と#15にボールを集める。市立川越も粘り強く守り、#4を中心に攻撃を仕掛けるが、埼玉栄の高さのあるディフェンスに苦しみ、シュートがリングに嫌われる。中盤以降、お互いに得点を伸ばすことができなかったが、終盤になると埼玉栄は再びインサイドで得点を伸ばし、70-52で試合終了。埼玉栄が激しいディフェンスと高さを生かしたオフェンスで、市立川越の上手さを封じた一戦であった。これで決勝リーグは全チームが1勝1敗となり、インターハイ出場権の行方は最終戦までもつれることになった。

記入者 加藤祐介